

学区概要

文治年間（790 年前平安時代）に茂庭村と称し、川村四郎秀清（従 5 位下筑後守）の領地であった。後に、茂庭姓となって代々この地を統治したが、元和年間になって茂庭氏は居を他に移したため、一時伊達家の直轄地になった。

その後、元禄 15 年（1702）再びその子孫があとを継ぎ、明治に至った。地区の名称である生出は、太白山の別名・生出森からきたものである。

明治 22 年町村制の試行により坪沼村と合併、生出村と改称された。当時の村長であった長尾四郎右衛門氏が、副業奨励としてみつまたを増産し、村の向上発展に努め、全国三模範村の一つに加えられた。

昭和 31 年 4 月仙台市に合併し、平成元年に区制になり、太白区となった。以前は純農村地帯であったが、太白山麓の住宅地や茂庭台団地が造成、さらに学区内にも宅地が造成され、都市化が少しずつ進んでいる。

平成 27 年 4 月より仙台市立坪沼小学校と、令和 3 年 4 月より生出小学校赤石分校と、それぞれ統合した。坪沼地区及び赤石地区の児童は、各地域からスクールタクシーで本校へ通学している。

